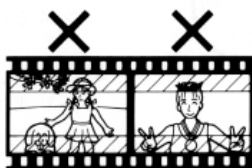


- * パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。詳しくは、お店でおたずねください。
- * パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。



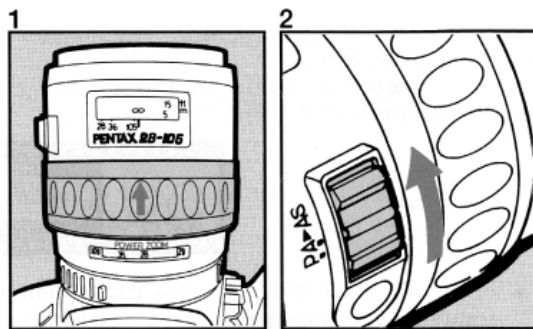
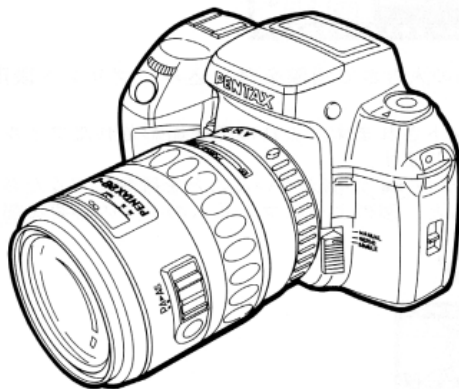
- * パノラマプリントでは、フィルム上に約13mm×36mmの大きさに画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。
- * パノラマプリントはおよそ89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。
- * 標準撮影のときは、必ずファインダー内のパノラマシグナル  が消えていることを確認してください。パノラマ撮影になっていることに気が付かずに撮影すると、図のようにフィルムの上下の必要部分がカットされてしまいます。



(10) パワーズームの拡張機能

F AズームレンズをZ-1Pと組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

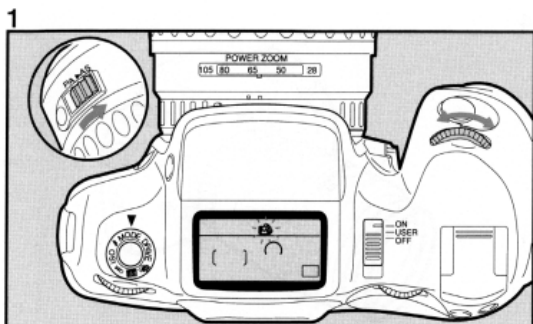
- ①ズームクリップモード
- ②イメージサイズ指定モード
- ③露光間ズームモード



オートズーム機能を使うための準備

1. 図のように **POWER ZOOM** が見える状態にします。
2. レンズのオートズームスイッチを **A** (一部のレンズでは **AZ**) に合わせます。

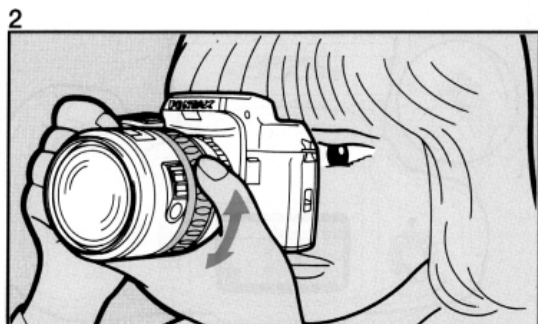
* これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶しておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲（焦点距離）を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。

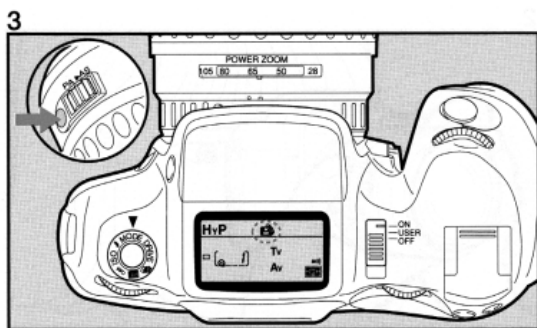


1. レンズのオートズームスイッチを **[AS]**（一部のレンズでは **[MODE]**）側に押し付けたまま **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルの 表示を点滅させてください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

* このとき、自動的にピント合わせも行われません。ただし、 表示と合焦音は出ません。（ペンタックスファンクションNO. 13で変更可）

応用的な使い方

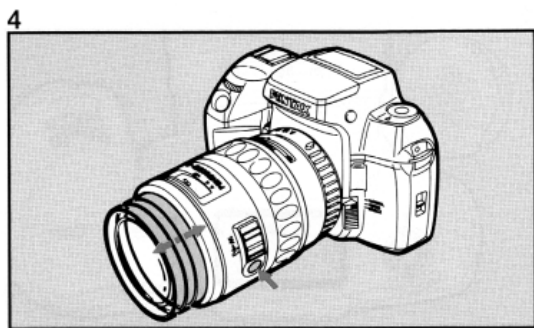
82



3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの 表示が点灯に変わり、焦点距離が記憶されます。

* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。

* 電源スイッチを **[OFF]** にしても、記憶した内容は消えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。



4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

* ズームセットボタンを押すと自動的にピント合わせも行われます。ただし、 表示と合焦音は出ません。

* ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを **[P]**（一部のレンズでは **[PZ]**）に戻してください。

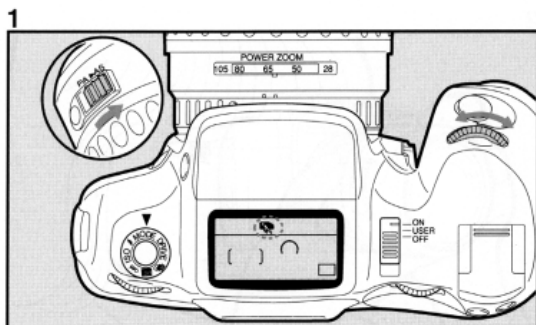
* レンズを外すと、記憶していた内容は消えてしまいますので、ご注意ください。

応用的な使い方

②イメージサイズ指定モードの使い方

ファインダーを覗きながら構図を決め、そのときのイメージサイズ(撮影倍率)をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶させたイメージサイズ(撮影倍率)になるように、カメラが自動的にズーミングする機能です。

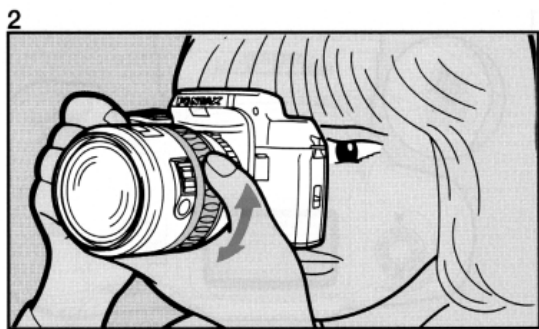
例えば、近づいたり遠ざかったりする子供を、同じ大きさで撮影することができます。



1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部のレンズでは **MODE**) 側に押し付けたまま T v ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに  マークを出します。

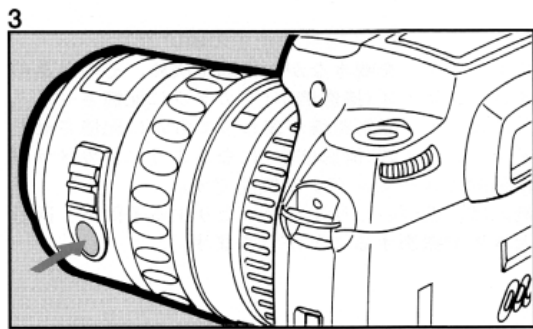
- * フォーカスモードレバーが **MANUAL** になっていると、イメージサイズ指定モードは使えません。
- * イメージサイズ指定モードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。

応用的な使い方



2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを操作して好みの位置までズーミングします。

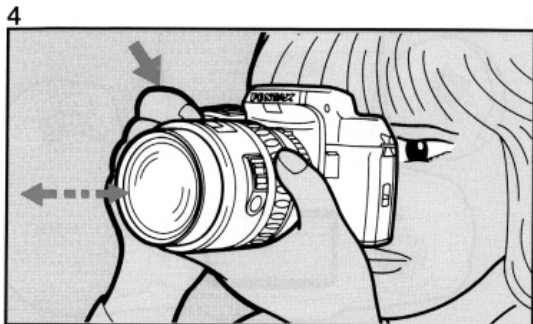
- * このとき、自動的にピント合わせも行われます。ただし、 マークと合焦音は出ません。(ペンタックスファンクション NO. 13 で変更可)



3. レンズのズームセットボタンを押すと、再び自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとその時点のイメージサイズをカメラが記憶します。

- * 新たにイメージサイズを記憶させると、前の記憶内容は消えてしまいます。
- * ピントが合うとファインダー内の  が光って電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクション NO. 1 で変更可)

応用的な使い方



4. シャッターボタンを半押しすると、撮影距離が変わっても被写体の大きさが一定になるように自動的にズーミングします。

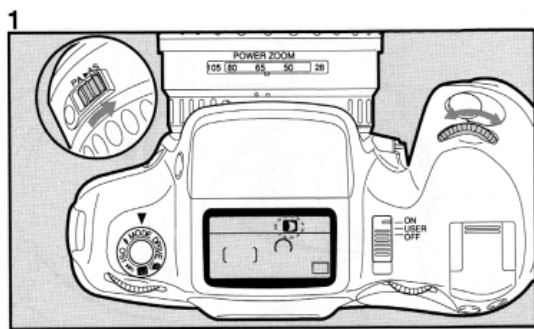
* ズーミング中にシャッターボタンを押し切ってしまうと、指定したイメージサイズになりません。シャッターボタンは、ズーミングが終了してから押し切ってください。

- * 電源スイッチを **[OFF]** にしても、記憶されている内容は消えません。
- * レンズを外すと、記憶していた内容は消えてしまいますので、ご注意ください。
- * イメージサイズを決めるときには、使用するズームレンズの中間付近に焦点距離を設定すると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、焦点距離が28～80mmのレンズでしたら焦点距離を50mm付近にすると便利です。
- * 電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますので、ご注意ください。
- * 被写体が動体の場合は、イメージサイズが一定にならないことがあります。
- * 撮影距離が近すぎたり遠すぎたりすると、ズームレンズの焦点距離の作動範囲を超えてしまい、指定したイメージサイズになりません。また、他のレンズに交換した場合も、前のレンズで記憶したイメージサイズで制御されますので、指定したイメージサイズにならない場合があります。

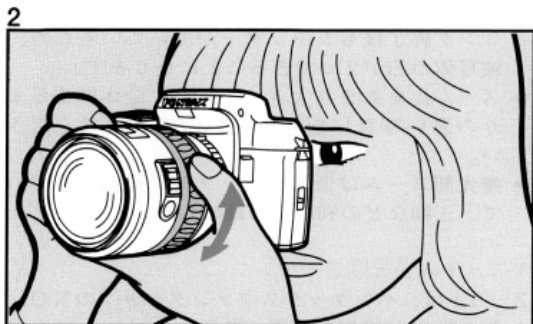


③露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側（ペンタックスファクションNO. 14で変更可）にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。

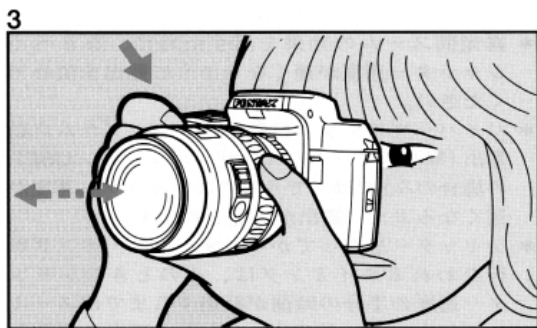


1. レンズのオートズームスイッチを **[AS]**（一部のレンズでは **[MODE]**）側に押し付けたままT vダイヤレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[D]** 表示を出してください。
- * 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを **[P]**（一部のレンズでは **[PZ]**）に戻してください。
- * 露光間ズームモードでは、内蔵ストロボのみを使用する場合を除き、ストロボを後幕シンクロにセットしても先幕シンクロで制御されます。



2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

- * 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。
- * ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合のみ)では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。
- * シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半(シャッター速度の残り時間)でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。



3. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

- * シャッター速度が速いと、ズーミングする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~105mmレンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~105mmまでのズーミングはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズー

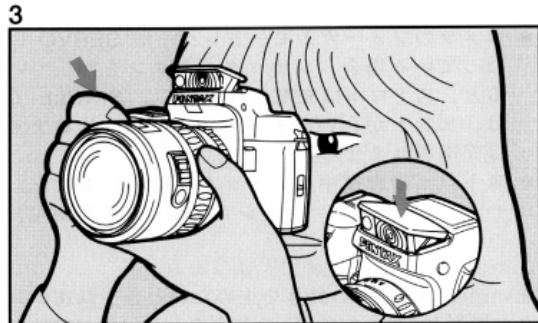
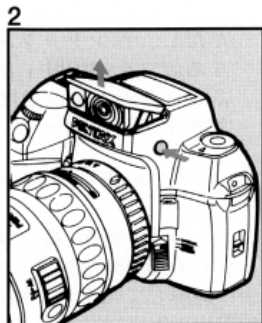
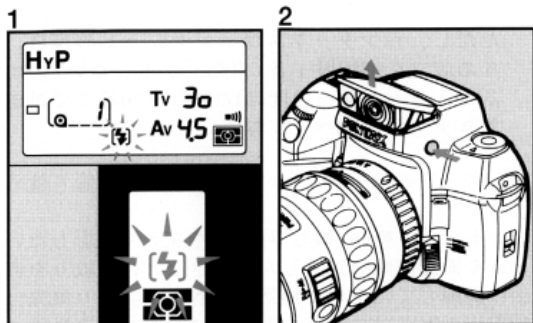
ミング終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。

- * ズーム比をあまり大きくすると、全体にまとまりの悪い写真になりやすいのでご注意ください。
- * 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

マニュアル露光間ズーミングについて

Z-1Pは、ペンタックスファクションのNO. 15の設定が選択肢1番(露光中のマニュアルパワーズーミングが可能)に設定してある場合(109ページ)は、露光中でも、撮影者が自由にパワーズームで焦点距離を変えることができます。ズーミング速度やタイミングを自分で調整できますので、工夫次第で面白い写真が作れます。

- * マニュアル露光間ズーミングを行なうときは、オートズームスイッチを **[P]** (一部のレンズでは **[PZ]**) にして通常のパワーズームで使う状態にします。



Z-1 Pの内蔵ストロボは、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. ハイパープログラム自動露出し、シャッターボタンを半押しすると、周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルとファインダー内の が点滅して、ストロボの使用を勧めます。
2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに が表示されます。シャッターボタンを

半押しすると、ファインダー内にも が表示されます。

3. シャッターボタンを押し切って撮影をします。

* 明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、A レンズ以前のレンズ使用時は、低速限界は1/60秒になります。

* 撮影後、内蔵ストロボはストロボ上部の矢印部分を押し込んで収納してください。

応用的な使い方

* カメラのフォーカスモードレバーが **SERVO** になっている場合、シャッターボタンを押していると、ストロボは充電されません。 **SINGLE** では、ピントが合いフォーカスロックされるまでは充電されません。

* ストロボの充電中はシャッターは切れません。(ペンタックスファンクション NO. 10 で変更可)

シャッター優先自動露出を使うとき

速い速度の被写体の動きを止めたいときや低速シンクロ撮影(95ページ参照)のときなどに、1/250秒以下のシャッター速度を自由に調節してストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

* ハイパープログラム自動露出からTvダイレクトダイヤルでシャッター優先自動露出にしたとき、設定可能なシャッター速度範囲は1/250秒から絞りが最小絞りになるときのシャッター速度までです。

ただし、ペンタックスファンクションのNO. 5の設定を選択肢1番(自動シフトしない)にすると、シャッター速度は1/250秒～30秒まで設定できます。(105ページ参照)

絞り優先自動露出、ハイパーマニュアル露出を使うとき

ピントの合う範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときや撮影距離を遠くしたいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出

* 明るさによってシャッター速度が1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、A レンズで絞りA位置の場合は、低速限界は1/60秒になります。また、A レンズで絞りをA位置以外にした場合とA レンズより前のレンズ使用時は、1/250秒固定となります。ハイパーマニュアルで **IF** ボタンを押したときも同様です。

- * ハイパープログラム自動露出からAvダイレクトダイヤルで絞り優先自動露出にしたとき、設定可能な絞り値の範囲は、シャッター速度が変化する範囲です。ただし、ペンタックスファクションのNO.5の設定を選択肢1番(自動シフトしない)にすると絞りは開放から最小絞りまで設定できます。(105ページ参照)

ハイパーマニュアル露出

- * 絞りやシャッター速度(1/250秒以下)を自由に選んでストロボ撮影ができます。
- * ペンタックスファクションのNO.7の設定を選択肢1番(ハイパーマニュアルで「IF」ボタンを押したときに背景が適正露出になるよう)に設定しておく(106ページ参照)、シャッター速度が低速まで変化しますので、低速シンクロにご利用いただけます。(95ページ参照)

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $GN \div \text{使用絞り}$
 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 4.9$ (注)
 ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなります。

※ GN = ガイドナンバー

注：割り算で使った数値の「4.9」は、Z-1Pの内蔵ストロボを単独で使った場合にのみ適用される数値です。

撮影距離から使用絞りを計算します

$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方(2.8)にします。

なお、GNは使用するフィルム感度(ISO)により下の表のようになります。

ISO25 → GN 7	ISO200 → GN 20
ISO50 → GN 10	ISO400 → GN 28
ISO100 → GN 14	

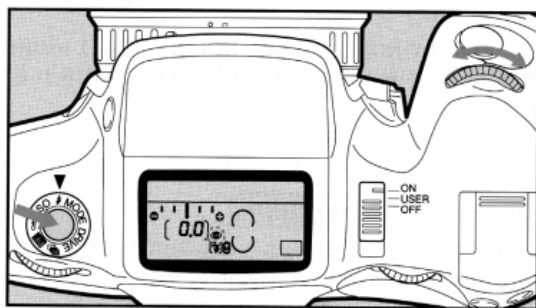
ここでISO100のフィルムを絞りF3.5で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します。

$$GN 14 \div F 3.5 = 4$$

$$4 \div 4.9 = \text{約} 0.8$$

従って、約0.8mから4mの範囲でストロボが使えます。



赤目軽減機能について

Z-1Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。

シャッターが切れる直前にストロボ発光(小光量)が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくすることができます。

セット方法

モードダイヤルを「」に合わせ、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに「」を表示させます。

- * ユーザーポジションでは赤目軽減機能は使用できません。ただし、ユーザーポジションへの

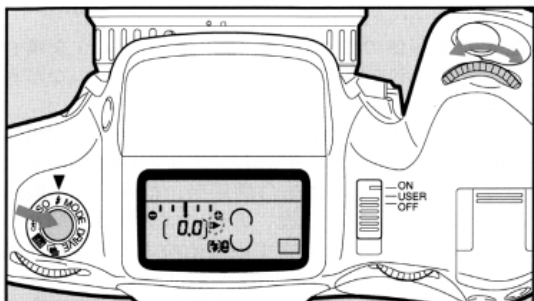
ユーザーセット機能により使用可能にすることができます。(75ページ参照)

- * 赤目軽減機能とAF500FTZなどのストロボのスレブ機能を組み合わせて撮影をすると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- * 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに「」が表示されていてもストロボ2度発光による赤目軽減機能は働きません。
- * 赤目軽減機能の解除は、セット時と同様に表示パネルの「」表示を消してください。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するため起こる現象と言われています。

赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。



内蔵ストロボの後幕シンクロ

Z-1 Pでは、内蔵ストロボの後幕シンクロができます。

後幕シンクロでは、後幕が走行を始める直前にストロボが発光します。通常の先幕シンクロでは、先幕の走行が終わった時点でストロボが発光します。このため、後幕シンクロで低速シャッターを利用すると、動く被写体の光跡を後ろに流れるように写し込むことができます。

セット方法

モードダイヤルを に合わせ、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに を表示させます。

- * ユーザーポジションでは後幕シンクロは使用できません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により使用可能にすることができます。(75ページ参照)
- * 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに が表示されていても後幕シンクロは動きません。
- * 内蔵ストロボを後幕シンクロに、外付けストロボを先幕シンクロにして同時に使用した場合、外付けストロボも後幕シンクロで制御されます。ただし、旧タイプの後幕シンクロ機能のないストロボでは、両ストロボとも先幕シンクロで制御されます。
- * 後幕シンクロの解除は、セット時と同様に表示パネルの 表示を消してください。
- * 内蔵ストロボの後幕シンクロでは、シャッター速度の上限は1/125秒になります。



ストロボなし



ストロボ使用(日中シンクロ)

日中シンクロについて

逆光で被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション の場合のみ)、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。

* 背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。



低速シンクロについて

暗い背景で人物撮影をするとき、ストロボを利用すると、人物にはストロボ光が当たり、背景も遅いシャッター速度でバランス良く写せます。露出モードは、ハイパーマニュアル露出とシャッター優先自動露出が使えます。

ハイパーマニュアル露出の場合

1. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
2. ハイパーマニュアル露出にします。
3. 適正露出になるようにシャッター速度と絞りを選んでください。(49ページ参照)

4. 撮影します。

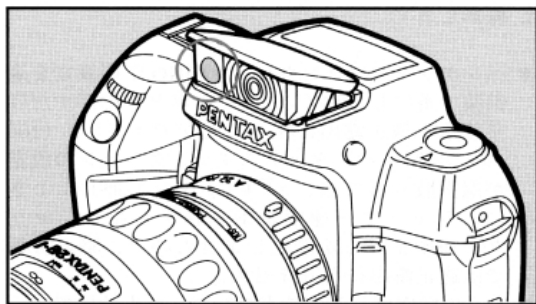
- * ペンタックスファクションのNO.7の設定を選択肢1番にしておくと、**[IF]**ボタンを押すだけで背景を適正露出にすることができます。(106ページ参照) ペンタックスファクションの設定が選択肢0番では、**[IF]**ボタンを押したときに、シャッター速度が手ぶれをしないシャッター速度までしか変化しませんので、暗い背景では適正露出になりません。

- * 「1.」の操作は、どの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

1. シャッター優先自動露出にします。
2. 1/250秒以下の好みのシャッター速度を選びます。
3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
4. 撮影します。

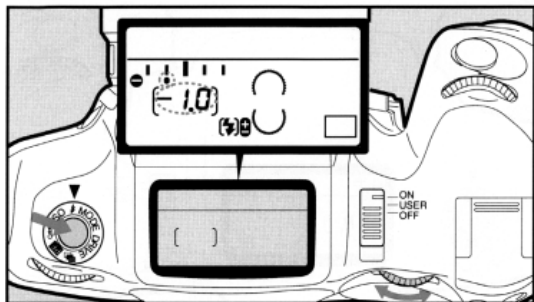
- * 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。



AFスポットビームについて

暗いところではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなとき内蔵ストロボを飛び出させてシャッターボタンを半押しすると、赤色光(AFスポットビーム)を自動的に投光して約1～6mの範囲で快適にオートフォーカスを作動させることができます。

- * AFスポットビームが働くのは、フォーカスモードレバーが**[SINGLE]**の場合だけです。
- * ストロボを使いたくないときは、ビントが合ったところでフォーカスロックしたまま、内蔵ストロボを収納してください。
- * AF330FTZなど、外付けストロボのAFスポットビームを使用するときは、内蔵ストロボのAFスポットビームは働きません。
- * 明るいところでは、AFスポットビームは作動しません。



Z-1Pでは、背景の明るさを変えずに内蔵ストロボおよび外付けストロボの光量だけを変えることができます。

セット方法

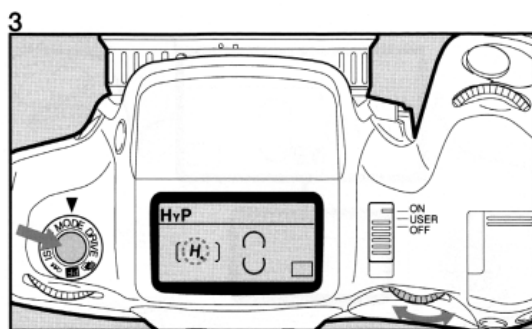
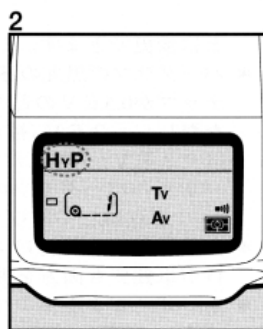
モードダイヤルを に合わせ、モードセットボタンを押したままAvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選んでください。

- * モードセットボタンを押すと、表示パネルに補正值、バググラフ、 および が表示されます。
- * 補正は-3 ~ +1 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。ペンタックスファンクション設定で、露出補正のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに

とに変更できます。(104ページ参照)

- * バググラフの黒丸の移動量1つが0.3 EV (補正ステップが0.5 EVのときは0.5 EV) に相当します。ただし、-2 EV (補正ステップが0.5 EVのときは-3 EV) を越えた値を設定した場合は、表示パネルのバググラフの (ファインダー内は) が点滅して知らせます。
- * 光量補正は、外付けストロボあるいは内蔵ストロボ単独でも両方を併用しても使えます。
- * ユーザーポジションでは光量補正は使用できません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により使用可能にすることができます。(75ページ参照)
- * 光量補正の解除は、セット時と同様に補正值を0にしてください。
- * 補正中は、表示パネルおよびファインダー内に が表示されます。
- * 電源スイッチを切ったり、他のモードにしても補正は解除されません。
- * 被写体の明るさや距離によっては、設定した補正值どおりに補正がされないことがあります。
- * 露出補正と組み合わせると、背景の明るさとストロボの光量を別々に変えることができます。ただし、光量の補正量は露出補正值と光量の補正值を加えた値になります。

(13) 好みのプログラムラインを選びます

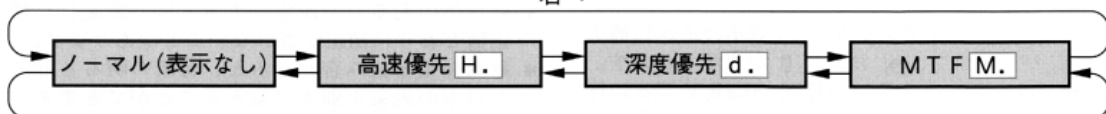


Z-1Pでは、ノーマルプログラムラインの他に、高速優先プログラムライン・深度優先プログラムライン・MTFプログラムラインを選ぶことができます。

設定方法

1. モードダイヤルを **MODE** に合わせます。
2. 露出モードをハイパープログラム自動露出にします。(46ページ参照)
3. モードセットボタンを押しながらAvダイレクトダイヤルを回すと下図のようにプログラムラインを選ぶことができます。

右へ



左へ

ノーマルプログラムライン

ノーマルプログラムラインは基本となるプログラム自動露出です。

高速優先プログラムライン

高速優先プログラムラインはなるべく速いシャッター速度が切れるよう高速シャッターを優先するプログラム自動露出です。

深度優先プログラムライン

深度優先プログラムはなるべく絞りを絞り込んで撮影できるように小絞りを優先したプログラム自動露出です。

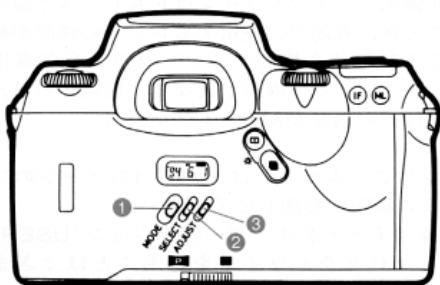
MTF優先プログラムライン

MTF優先プログラムラインはF A レンズと組み合わせたときに有効で、使用するレンズの性能が最も良くなる絞り値を優先するプログラム自動露出です。レンズによって線図が異なり、使用するF A レンズ内にその情報が記録されています。

- * 各プログラムラインは、130、131ページのプログラム線図を参照してください。
- * 電源スイッチがユーザーポジション **USER** では、プログラムラインを選ぶことはできません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により、露出モードをハイパープログラムに設定する場合は、設定時にプログラムラインも含めて選ぶことができます。

応用的な使い方

(14) クォーツデータのデータ修正



- ① = **MODE** ボタン
- ② = **SELECT** ボタン
- ③ = **ADJUST** ボタン

データの修正方法

1. ②の **SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→時
時分表示のとき 時→分→→
 2. ③の **ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。
- * **ADJUST** ボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。
 - * データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。

応用的な使い方



写真の数字はハメ込み合成です。